

第106回愛媛県内企業動向アンケート調査結果（一部抜粋） ～2025年度下期実績、2026年度上期見通し、2026年度下期予想～

愛媛銀行 ひめぎん情報センター

【調査要領】

調査目的	愛媛県内における企業の経営実態と景気動向の把握
調査対象	愛媛県内に事業所を置く企業
調査方法	Webによるアンケート調査
調査時期	2026年5月
調査対象期間	実績：2025年度下期 (2025年10月～2026年3月) 見通し：2026年度上期 (2026年4月～2026年9月) 予想：2026年度下期 (2026年10月～2027年3月)
調査項目	業況、経営課題、生成AI活用、 ホルムズ海峡影響 等

【回答状況】

業 種	調査企業数 (社)	回答企業数 (社)	回答率 (%)	構成比 (%)	
全 産 業	967	296	30.6	100.0	
製造業	製造業	132	48	36.4	16.2
	建設業	105	39	37.1	13.2
	農林水産業	20	7	35.0	2.4
非製造業	卸売業	123	38	30.9	12.8
	小売業	137	31	22.6	10.5
	不動産業	48	14	29.2	4.7
	運輸・通信業	58	29	50.0	9.8
	サービス業	344	90	26.2	30.4

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない。

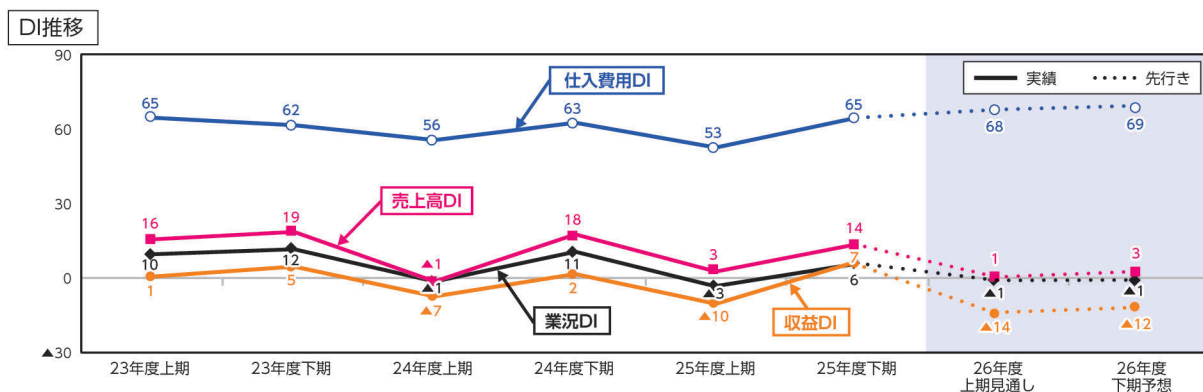
要約

1. 業況

- (1) 2025年度下期（実績）は、業況DI+6、売上高DI+14、収益DI+7とともに前期より改善した。

一方、仕入費用DI（実績）も+65と前期を上回り、高い水準となった。

- (2) 先行き（2026年度上期⇒2026年度下期）については、売上高DI（+1⇒+3）、収益DI（▲14⇒▲12）、仕入費用DI（+68⇒+69）となり、業況DIは、2026年度上期（見通し）が▲1、2026年度下期（予想）が▲1と、やや慎重な見方となっている。



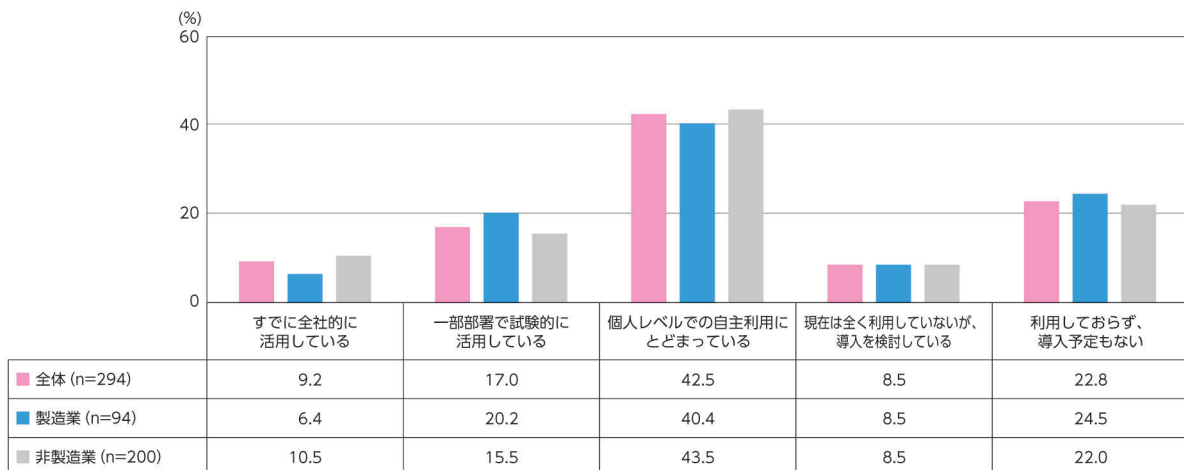
- (3) 2025年度下期の設備投資実施企業は、全産業で42%（製造部門52%、非製造部門38%）の実績であった。2026年度上期は43%（製造部門46%、非製造部門42%）の見通しである。

2. 原材料価格等の上昇による価格転嫁

- (1) 価格転嫁を既に実施している企業（2025年度下期）は、製造業56.0%・非製造業48.0%の実績であった。2026年度下期には製造業73.0%・非製造業54.4%に増加する予想である。
- (2) 価格転嫁率（2025年度下期）が50%以上の企業は44.5%で、前期より増加している。

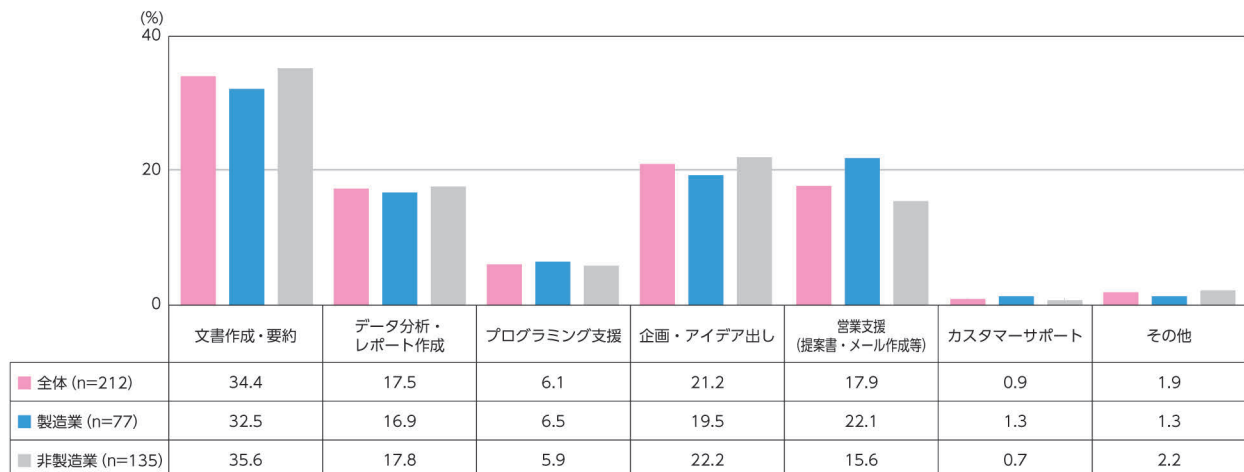
生成AIの活用について

1. 生成AIの活用状況



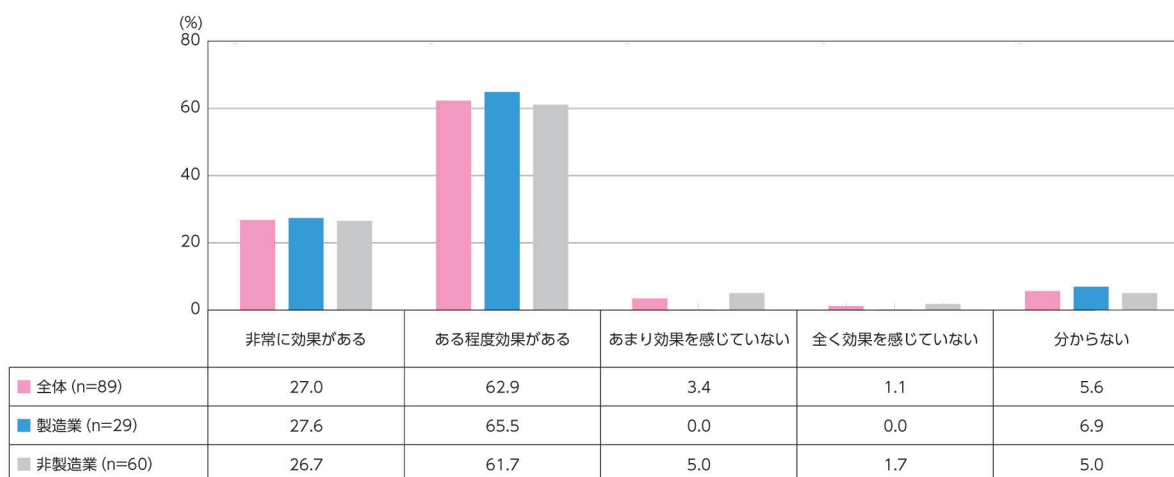
- 「個人レベルでの自主利用にとどまっている」が全体42.5%（製造業40.4%、非製造業43.5%）で最も多く、「すでに全社的に活用している」が全体9.2%（製造業6.4%、非製造業10.5%）、「一部部署で試験的に活用している」が全体17.0%（製造業20.2%、非製造業15.5%）であった。また「現在は全く利用していないが、導入を検討している」が全体8.5%（製造業8.5%、非製造業8.5%）であった。
- 一方、「利用しておらず、導入予定もない」が全体22.8%（製造業24.5%、非製造業22.0%）であった。

2. 生成AIを活用している業務（複数回答可）



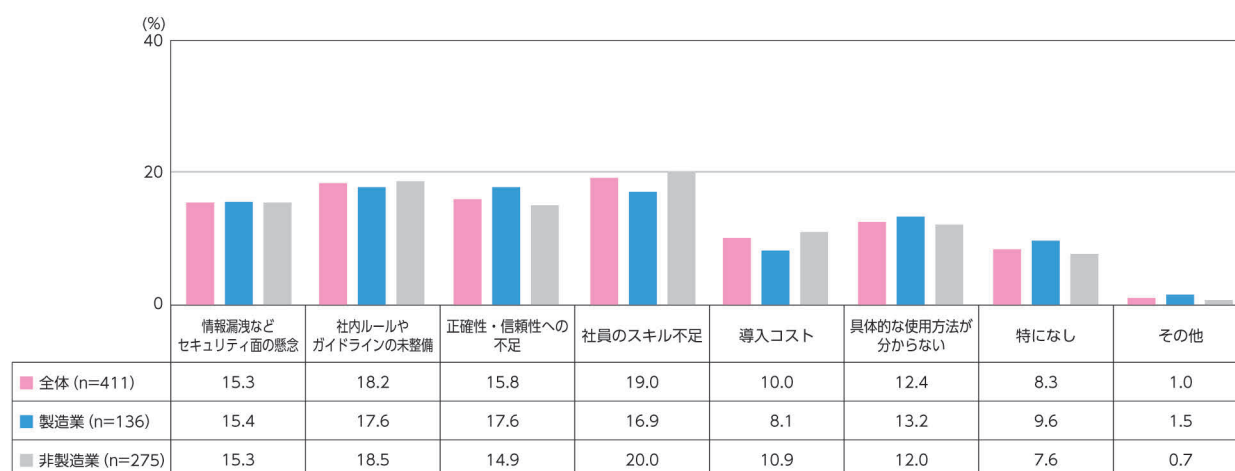
- 「文書作成・要約」が全体34.4%（製造業32.5%、非製造業35.6%）で最も多く、「企画・アイデア出し」が全体21.2%（製造業19.5%、非製造業22.2%）、「営業支援（提案書・メール作成等）」が全体17.9%（製造業22.1%、非製造業15.6%）、「データ分析・レポート作成」が全体17.5%（製造業16.9%、非製造業17.8%）と続いている。
- 「企画・アイデア出し」から「プログラミング支援」まで幅広い業務での活用が見られる。

3. 生成AI活用の効果



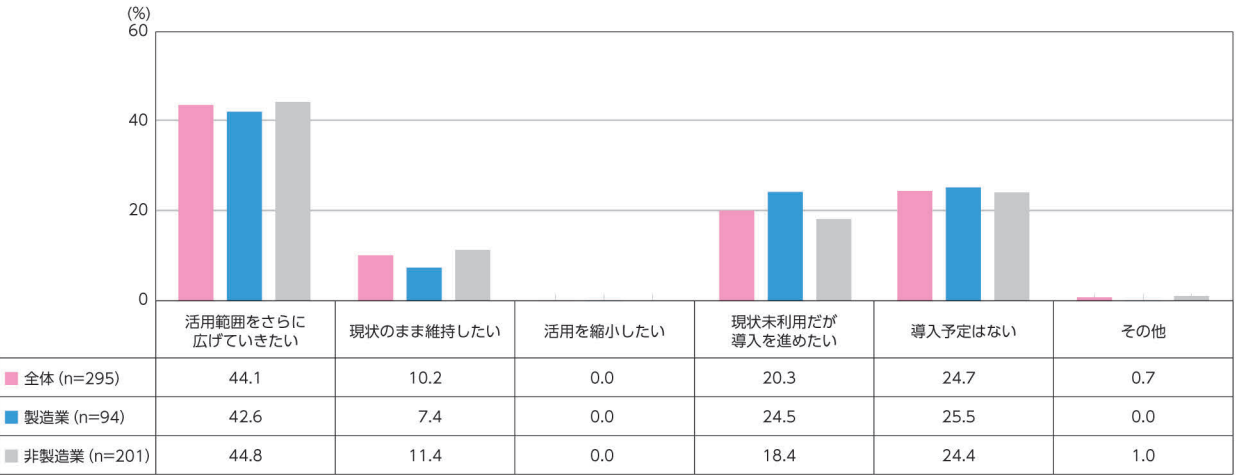
- 「ある程度効果がある」が全体62.9%（製造業65.5%、非製造業61.7%）が最も多く、「非常に効果がある」が全体27.0%（製造業27.6%、非製造業26.7%）で、合計すると全体の89.9%が「効果がある」と感じていることが分かる。
- 一方、「あまり効果を感じていない」が全体3.4%（製造業0.0%、非製造業5.0%）、「全く効果を感じていない」が全体1.1%（製造業0.0%、非製造業1.7%）、「分からない」が全体5.6%（製造業6.9%、非製造業5.0%）となっている。

4. 生成AIの活用に至らない理由（複数回答可）



- 「社員のスキル不足」が全体19.0%（製造業16.9%、非製造業20.0%）、「社内ルールやガイドラインの未整備」が全体18.2%（製造業17.6%、非製造業18.5%）、「正確性・信頼性への不足」が全体15.8%（製造業17.6%、非製造業14.9%）、「情報漏洩などセキュリティ面の懸念」が全体15.3%（製造業15.4%、非製造業15.3%）の順が多い。
- 「具体的な使用方法が分からない」（全体12.4%、製造業13.2%、非製造業12.0%）、「特になし」（全体8.3%、製造業9.6%、非製造業7.6%）等、活用につながりそうな理由もあった。

5. 今後の生成AI活用方針



- 「活用範囲をさらに広げていきたい」が全体44.1%（製造業42.6%、非製造業44.8%）、「現状のまま維持したい」が全体10.2%（製造業7.4%、非製造業11.4%）、「現状未利用だが導入を進めたい」が全体20.3%（製造業24.5%、非製造業18.4%）であり、合計すると、全体の74.6%となり、今後の活用は拡大していくと予想される。
- 一方、「導入予定はない」は全体24.7%（製造業25.5%、非製造業24.4%）、「活用を縮小したい」は全体0.0%（製造業0.0%、非製造業0.0%）であった。